

英語面白辞典管見

井 上 亮 治*

A Glance at Esar's Comic Dictionary

Ryoji INOUE*

Esar's Comic Dictionary は40年も前（1951年）にアメリカで出版された辞書である。これは普通の辞書とは異なっていて、暇なときなどにひもとく辞書であろう。ふるいところでは、イギリスの Johnson の辞書とか、またアメリカの文人 Ambrose Bierce の Devil's Dictionary（悪魔の辞典）もそれらの定義の奇抜なことでよく知られている。しかしこの辞典はそれらに勝るとも劣らないほどのもので、読む人をして抱腹絶倒させる。

ここではいくつかの言葉（words）をとりあげた。それらの定義のしかたによってアメリカ文化の側面を垣間見ることができるかと思う。

教養ある英語国民には常識となっている英文学の古典（たとえば、The Bible, Shakespeare の作品など）からの引用（Allusion）、まね（Echo）などを巧みに利用して、言葉遊び（Play on words）をして面白く定義しているが、われわれ日本人には読んですぐさま理解できるとはかぎらないので、いささか解説めいたとこを付け加えた。

辞書であるからとうぜん Alphabetical Order になっているが、それを(1)人物、(2)事物、(3)場所にわけてみた。また項目（Entry）の後に数字があげてあるが、それは定義（Definition）の数である。それによってそれらの語（words）がいかにアメリカ人に関心がもたれているかがわかるであろう。

尚、日本語にすると残念ながら、原文のおかしみの大半が失われてしまうものもあるので、それらは（解説）で補うことにした。

I 人物

Absent-minded professor (4)（うっかり教師）

*外国語系列・非常勤講師（Department of Foreign Languages）

A teacher who often remembers that he has forgotten something, if he could only remember what it is.

(もしそれがなんであるかを思いだしさえすれば、なにかを忘れていたことをしばしば思いおこす教師。)

(解説) 教師という職業にある人にはこのタイプのひとがよくある。またそれが教師のよいところでもあろうか。

Adult (3) (成人)

One who has ceased to grow vertically and has begun to grow horizontally.

(縦に成長がとまり、横に成長しだした人。)

(解説) vertical は「縦の」そして、horizontal は「横の」という意味。大人になると身長はとまり、太りだす。ここでは、vertically と horizontally という対照的な言葉を用いて面白く表現した。

American (13) (アメリカ人)

One who has more time-saving devices and less time than any other person in the world.

(世界中のどんな人よりも時間を節約できる装置を沢山もちながら、時間がもっとも足りない人。)

(解説) 車、掃除機、皿洗い機、などのような時間を節約できる機械をもちながら、どんな国民よりも忙しくしているという皮肉。

Bachelor (30) (独身の男性)

The man who buys a tie for himself the day after Christmas.

(クリスマスがすんでから自分用のネクタイを買う男性。)

(解説) もし妻帯者であればクリスマス当日に妻などから贈りものとして、ネクタイなどをもらうであろう、しかしだれもくれないので、しかたなしに自分でクリスマスがすんでから買う独身者の淋しさ。

Bathing beauty (7) (水着の美女)

A girl with seaworthy legs.

(見るにあたいする脚をした女性。)

A girl who has nothing to hide.

(なにもかくすものがない女性)

(解説) seaworthy とは、ふつうの表現では, worthy of seeing となろう。上掲を言い換えれば,

A girl whose legs are worthy of seeing.

または, A girl who has legs worthy of seeing. となろう。

近ごろの女性の水着はあまりにも大胆になり, ほとんど裸にちかいので, それこそなにもかくすところがない。

Bigamist (12) (重婚者)

A man who marries twice in a wifetime.

(妻帯者でありながら二度結婚する男性。)

(解説) lifetime (生涯) という言葉を wifetime ともじった。

Bore (13) (うんざりさせる人)

One whose shortcoming is his longstaying.

(欠点はその人が長居することである。)

(解説) shortcoming は「短所」とか「欠点」という意味, longstaying はふつうには, staying long といって, 「ながい時間いること」。ここでは short と long また, come と stay という対照的な言葉で面白くしている。

Businessman (5) (実業家)

A man who spends his time making money and then spends money killing time.

(金を儲けるのに時間を使い, そして暇をつぶすのに金をつかう人。)

(解説) spend time making money 「金を儲けるのに時間をついやす」と spend money killing time 「暇をつぶすのに金を使う」という対照的な表現で面白くしている。わがくにの商社マン諸氏はどうであろうか。

Censor (18) (あらさがしをする人)

A man who always sticks his no's into other people's business.

(他人のことにいつも「ノー」という人。)

(解説) stick (put, poke, thrust) one's nose into ~ は「~のおせっかいをやく」という意味。それを stick one's no's と同音意義語を用いている。

Chatterbox (10) (おしゃべり女)

A woman who is always holding a conversation but never lets it go.

(いつも話していて、やめない女性。)

(解説) hold a conversation は「会話をしつづける」 let ~ go は「解放, または, 放免する」という意味。

Coed (6) (大学の女子学生)

A girl student who hopes to graduate from college with a Magna Cum Lad.

(素晴らしい男子学生をつかまえて, 大学を卒業したいと思っている女子学生。)

(解説) Magna Cum Laude はラテン語で「優等で」という意味。これはよく使われる言い方。この Laude を音のよく似た Lad (男の子) といいかえたもの。
アメリカの大学の女子学生は卒業までに将来の結婚相手を見付けないとその後はなかなかむつかしいといわれている。わがくにの女子学生はどうであろうか。

Comedian (10) (喜劇役者)

One whose life is no laughing matter.

(人生が笑いごとではない人。)

(解説) laughing matter は「笑いごと」という意味。喜劇役者は聴衆を笑わせるのがその人の職業である。しかし他人を笑わせることは本人にとってはそれこそ「笑いごと」ではないはず。

Commuter (5) (通勤者)

A traveling man who pays short visits to his home and office.

(自分の家庭と職場に短い時間しか立ち寄らない旅行者。)

(解説) 近ごろは通勤に時間がかかる人が多いので、自分の家と勤め先の間を行き来しているだけの生活になりがちである。

わがくにの首都圏に勤めるサラリーマンなどはそれこそ朝暗いうちに家をでて、夜おそくなってから帰るので、小さい子どもなどは父親の顔もしらないとかである。

Dentist (17) (歯医者)

A man who bores you to tears.

(穴をあけて泣かせる人。)

(解説) bore は「穴をあける」と「うんざりさせる」という二つの意味がある。歯医者は「(歯)に穴をあける」ので患者は痛くて涙がでる。いまひとつは、たとえば、His speech bored me to death (tears). は「かれの講演にまはったくうんざりした。」という意味。この場合の bore ~ to tears には二つの意味があろう。

Drunkard (10) (酔っ払い)

One who is always out of spirits between drinks.

(酒を飲んでいないときはいつも機嫌がわるい人。)

(解説) out of spirits は in spirits (機嫌がよい) の反対。いまひとつは、spirits には「つよい酒」の意味もあるので文字どおり、「酒がさかれている」という意味もある。

Economist (11) (経済学者)

The man who reads the menu from right to left.

(メニューを右から左へ読む人。)

(解説) レストランなどのメニューはどうぞん左から右へ読む。つまり品目の次ぎに値段が書いてある。それを右から左へ読むことは、まず値段をみてから食べるものをきめるのである。

この「経済学者」は「むだ使いをしない」のである。英語で言えば, economical な人である。

Flirt (9) (浮気女)

A girl with R. S. V. P. eyes.

(ご返事を乞うという目つきをした女。)

(解説) R. S. V. P. は Répondez, s'il vous plaît. (ご返事をおねがいします。) という招待状に書かれるきまり文句。ここでは相手の男性からの返事を待っているような目つきをした女。

Friend (11) (友人)

One who says nasty things to your face instead of saying them behind your back.

(陰ではなく、面とむかって不愉快なことを言う人。)

(解説) to one's face は「面とむかって」、behind one's back は「人の陰で」という意味。たしかに人の陰げ口をきくよりも面とむかっていやなことを言ってくれるのが本当の友人かもしれない。

Gentleman (20) (紳士)

A well-bred man who steps on his cigarette so it won't burn your rug.

(敷きものが焦げないように、たばこの吸い殻を踏みつけるほど育ちのよい男性。)

(解説) 灰皿がないばあい、たばこの吸い殻をもみ消すのに敷きものを焦がしてはいけけないので、それを焦がさないように注意して踏みつける。たしかに育ちがよい！

Girl (9) (女性)

A creature that will scream at a mouse yet silently get into a car with a wolf.

(鼠をみるとキャーと大声をあげるが、そのくせ狼といっしょにだまって車に乗ってしまうような女の子。)

(解説) あちらの女の子は鼠が嫌いなようで、見ただけでキャーと大きな声をたてる、しかし wolf (「狼」ここでは、「女たらし」) に誘われると、すぐにいうことを聞いてしまう。

Glamor girl (11) (グラマーガール)

A girl who can pass a beauty test but can't pass a beauty parlor.

(美人コンテストにはパスするが、美容院を通りすぎることはできない女性。)

(解説) pass は「(テストなどに) パスする」という意味と、「(ある場所などを) 通りすぎる」という意味がある。ここでは、美人コンテストにパスしても、「美容院」に立ち寄って美しく整髪などをしてもらおう。pass a beauty test と pass a beauty parlor という表現が対になって面白く用いられている。

Gold digger (19) (金めあてに男性とつきあう女。)

A woman who falls in love at purse sight.

(財布をみたらすぐに恋におちる女。)

(解説) at purse-sight はもちろん at first sight 「ひと目で」という Idiom をもじったもの。

Gossip (14) (おしゃべり女)

A woman who listens in haste and repeats at leisure.

(いそいで聞き耳をたて、暇なときに繰り返し口にする女。)

(解説) これは Marry in haste, repent at leisure. 「あわてて結婚すると、あとでながく悔やむことになる。」という諺をもじったもの。

因みに、これは William Congreve (1670-1729) の The Old Bachelor (V, viii) に Mar-ry'd in haste, we may repent at leisure. とある。これが諺となった。

Henpecked husband (19) (女房の尻に敷かれた亭主)

A man who never hides behind a woman's skirts because his wife wears the pants in the family.

(家のなかでは妻がズボンをはいているので、スカートのかげにはけっしてかくれない男性。)

(解説) wear the pants は「(妻が) 主導権を握る」という Idiom。ここでは妻がスカートでなくズボンをはいているのでその後にかくれることはできない。

Highbrow (9) (インテリぶる人)

A person who enjoys a thing until it becomes popular.

(あるものごとが大衆化されるまではそれを楽しむひと。)

(解説) highbrow は通俗的なものごとを軽蔑する傾向がある。

Husband (31) (亭主)

The only man who knows that there are somethings you can't say with flowers.

(思う心を花で伝えることができないものごとがあるということを知っているただ一人の男性。)

(解説) Say it with flowers. は「思う心を花で伝える。」というきまり文句。

亭主はいまさら妻に花を贈ってきげんをとることができない。

Lawyer (12) (弁護士)

A man whose greatest asset is his lie-ability.

(その人の最大の資産は嘘をつく能力である。)

(解説) asset (s) は「資産」のこと、そして liability (liabilities) は「負債」という意味。一般には assets and liabilities として用いられる。ここではそれをもじって、lie 「嘘」と ability 「能力」とした。弁護士は「嘘をつく能力」がないと有能ではないらしい。

Man (26) (男性)

An irrational creature who is always looking for home atmosphere in a hotel and hotel service at

home.

(ホテルに泊まって家庭の雰囲気をもとめ、家ではホテルのサービスをしてほしいような無分別な人。)

(解説) home atmosphere in a hotel 「ホテルで家庭的な雰囲気」と hotel service at home 「家にいてホテル並みのサービス」を求めるのは無理であろう。

Movie star (14) (映画スター)

A woman who reveals her figure and conceals her age.

(自分のからだの線をみせながら、年をかくす女性。)

(解説) reveal は「(かくれているものを) 見せる」という意味で、conceal は「隠す」という意味。英語ではこれらは反意語である。映画スターはすこしでも自分の美しい姿を見せようとするが、その反面年齢はできるだけ隠そうとする。

Old maid (14) (オールドミス)

A girl who failed to strike while the iron was hot.

(鉄が熱いうちに打ちそこなった女性。)

(解説) Strike the iron while it is hot. 「鉄は熱いうちに打て。」という諺はよく知られている。オールドミスはまさに好機を逸した女性であろう。

Optimist (20) (楽天家)

A man who looks at things through an optic mist.

(目にうつる霧を通してものごとを見る人。)

(解説) optic とは「視力の」または「視覚の」という意味。mist は「もや」とか「霧」のこと。optic mist とは「目に見えるもやのようにぼんやりしたもの」。ここでは optimist と optic mist は音が似ている。あまりものごとをはっきりと見ると欠点がみえてくる。

Parent (8) (親)

A person who should be on spanking terms with his children.

(こどもをピシャリとたたいてしかるべき間柄にある人。)

(解説) spank は「(こどもなどが悪戯をしたとき) その尻(頭ではない!) を叩く」意味。

on ~ terms with ~ は「~と~する間柄」という意味。たとえば, Jack is on speaking terms with Jill. は「ジャックとジルは口をききあうような間柄である。」という意味。

Pedestrian (38) (通行人)

A person who should be seen and not hurt.

(見られるだけで怪我をさせられてはならない人。)

(解説) これは Children should be seen and not heard.

(こどもは世間の人に見られるだけでよいので, シャベるのを聞かれてはならない。)
つまり「こどもは目上の人の前ではだまっていて, 話しかけられるまでは, ものを言っ
てはならない。」という諺をもじった。
hurt と heard は最後の音だけが異なっている。

Pessimist (28) (厭世家)

A man who is always building dungeons in the air.

(空中にいつも城の地下牢を造っている人。)

(解説) これはよく知られている, build a castle in the air 「空中楼閣をきずく」というきまり
文句を dungeon 「城のなかにある地下牢」とした。

Playboy (10) (遊び人)

A man who likes his liquor hard and his women soft, or his liquor straight and his women curved.

(酒はアルコール分が強く, 女はやさしく, または酒はストレートで女は曲線のあるのが好きな
男性。)

(解説) liquor は「酒類」, hard は「強い」, そして「女性」は soft 「やさしい」。straight は,

たとえば、drink whisky straight のように「ウイスキーをストレイトで飲む」などという。curved とは「(女性の身体) の曲線美のある」こと。

ここでは hard と soft, また straight と curved と反意語を用いて面白くいつている。

Politician (35) (政治屋)

A man who shakes your hand before election and pulls your leg afterwards.

(選挙まえには握手するが、そのあとは脚を引っばる人。)

(解説) shakes one's hand は「握手する」、pull one's leg は「ばかにする」とか「一杯食わす」という意味。政治屋(家)はいったん当選するとなかなか公約を守らないようである。

Widow (13) (未亡人)

A dangerous animal at large.

(野放しにされている危険な動物。)

(解説) at large は「(動物などが) 監禁されないで、自由で」という意味。未亡人はそれぞれ自分のしたいことを好きなようにできる。

Wife (17) (妻)

A bitter half.

(憎らしい半分)

(解説) 妻のことは冗談半分に better half などといわれるが、これを皮肉って bitter といった。bitter と better は音が似ている。

Woman (57) (女性)

A strange creature of whom a dimple makes an optimist and a wrinkle a pessimist.

(えくぼができれば楽楽家になり、しわができると悲観するおかしな人。)

(解説) dimple 「えくぼ」と wrinkle 「しわ」という言葉は最後の音がおなじ。また意味からみても、dimple は「可愛い」が wrinkle は、女性がいちばん気にする。

Ⅱ 事物

Accident (7) (「交通」 事故)

That which is often caused by the driver' hugging the wrong curve.

(運転する人がとんでもない曲り角に接近することによって引き起こすこと。)

(解説) hug the curve は「(道路などの) 曲がり角に接近して進む」という意味。いまひとつは curve は「(女性の) 腰などの曲線」のことで、美しい女性を座席の横に乗せて、うつつをぬかし、事故を起こすこと。

Afterdinner speech (4) (テーブルスピーチ)

Usually a diarrhea of words and a constipation of thought.

(ふつつ、言葉の下痢と思想の便秘。)

(解説) だらだらと長く話すわりに、内容に乏しいこと。

diarrhea 「下痢」とか、constipation 「便秘」などという医学用語を用いて面白みをだしている。

ちなみに、わがくにでは、「テーブルスピーチ」は宴会などでは食事の前におこなわれるが、アメリカなどでは食後 (つまり afterdinner) にされる。

Alimony (12) (妻への扶助料)

The high cost of loving (leaving.)

(愛しあうには金がかかり、また別れるにも金がかかる。)

(解説) アメリカでは離婚率が高く、夫は妻に Alimony を支払うことになる。何度も離婚することでひと財産をなした女性もあるとか。

Automobile (8) (車)

An invention to make people go fast and their money faster.

(人を速く行かせ、そしてその人の金をいっそう早くでてゆかせる発明品。)

(解説) 車社会を皮肉っている。わがくにでも親のすね齧りをしている若い男女が車を買ってもらっているようである。

Bathing suit (14) (水着)

A baiting suit.

(人を取りこにする服の一種。)

Brevity is the soul of it.

(短いのにこしたことはない。)

(解説) bait は「餌」つまり「おびきよせるもの」ちかごろ女性の水着はあまりにも大胆であるので男性は「おびきよせられる。」また, baiting と bathing は音も似ている。

Brevity is the soul of wit. 「言は簡潔を尊ぶ。」は Shakespeare の Hamlet (II, ii, 90) にある有名な文句をもじった。これも wit と it は韻をふんでいる。

Brassier (8) (ブラジャー)

A girl's bosom friend. (女性の親友。)

A hammock for two. (二つのものをささえるハンモック)

(解説) bosom は「胸」のことであるが, a bosom friend は「親友」。たしかにブラジャーは女性にとっては親友であろう。

A hammock for two の two はもちろん女性の breasts (乳房) のことをいう。つまりそれらをささえるためのハンモックとはうまい。

Burlesque (10) (バーレスク, 茶番劇)

A show where there are more girls than costumes.

(コスチュームよりは女性のほうがおおく出演しているショー)

(解説) 舞台にでて踊り子よりも衣装の数がたりない, つまり踊り子が衣装をあまり身につけないで踊っているのを揶揄している。

Christmas (16) (クリスマス)

The season when presents, not absence, makes the heart grow fonder.

(なにもないよりは、贈りものを貰うほうが心がいっそうあたたまる。)

(解説) これは Absence makes the heart grow fonder, 「離れていると情がいっそう深まる。」という諺をもじった。

ちなみに、これは Thomas Haynes Bayly (1797-1839) の Absence makes the heart grow fonder, / Isle of Bealty, fare thee well! からでている。absence (なにもないこと) と present (贈りもの) をうまく用いている。

Civilization (9) (文明)

A scheme devised by women to make men work for them.

(女性に代わって男性を働かせるように女性が工夫した機構。)

(解説) たしかに女性のほうが賢いかもしれない。

College education (8) (大学教育)

A four-year plan for confusing a young mind systematically.

(若い人の頭脳を組織的に混乱させるための4年間のプラン。)

(解説) 近ごろでは大学を卒業しても理論的にものを考えるような頭をもった人はなかなかいないことを皮肉っている。

Congress (14) (アメリカの議会)

A legislative body where mistakes becomes the laws of the land.

(誤りがそのくにの法律となるような立法機関。)

(解説) どこかのくににもあてはまるように思う。

Courtship (8) (求愛)

It begins when a man whispers sweet nothings and ends when he says nothing sweet.

(男性が恋をささやくときにはじまり, なにも甘いことをいわなくなると終わりになる。)

(解説) whisper sweet nothings とは「恋 (むつごと) をささやく」という意味。say nothing sweet は「甘いことはなにもいわない」ということ。

ここでは, sweet nothing と nothing sweet とが対照的に使われている。

Cosmetics (5) (化粧品)

Beauty preparations that were used in the Middle Ages and that are still used by women in the middle ages.

(中世に女性によって使用され, いまでもまだ中年の女性に用いられる美顔剤。)

(解説) the Middle Ages は「中世」のこと。そして middle ages は「中年」という意味。女性はいくつになっても化粧品を用いて美しくみせようとする。

Diamond (9) (ダイヤモンド)

A gem whose bright sparkle renders a woman stone-blind to the defects of the man offering it.

(キラキラかがやくきらめきが女性をしてそれをあたえようとする男性の欠点をまったくめくらにさせる宝石。)

(解説) gem 「宝石」と, stone-blind 「まったく盲の」がうまく使われている。

Divorce (21) (離婚)

The battle cry for freedom.

(自由へのときの声)

The future tense of marriage.

(結婚の未来形)

(解説) battle cry は「ときの声」つまり, 自由になりないと大声で叫ぶこと。

「離婚」しないとそのあとで結婚できない。

アメリカではちかごろ 2 人に 1 人の割合で離婚するとかである。わがくにはそれほどなくとも, 離婚率は高くなりつつある。

Democracy (12) (民主主義)

A form of government that is run by all the people and run down by some of them.

(すべての国民によって管理されているが、ある人々にはけなされている政治形態。)

(解説) run は「経営とか、管理する」という意味。

run down は「けなす」とか「わるくいう」という意味。run と run down をうまく用いている。日本語ではこのような場合はうまく表現できない。

Dress (3) (ドレス)

Something that is never immodest until a woman gets into it.

(女性が着るまでは決して慎みをかくようなものではない。)

(解説) ドレスはそれを身につける女性しだいで、上品にも下品にもなる。

Education (7) (教育)

What you have left after you have forgotten all you have learned.

(覚えたことをすっかり忘れてからあとに残るもの。)

(解説) 真の教育とはこのようなものかもしれない。

Evening gown (8) (イブニングドレス)

The dress a woman wears to be seen in the best places.

(女性がもっともよいところで見てもらうために身につけるドレス。)

(解説) in the best places 意味はこのばあい二つある。その(1)はパーティなど正式の場所と、(2)は Evening dress は身体の線がはっきりと出るので自分の自信のあるところを見せるのにも他のドレスよりも効果がある。

Etiquette (10) (エチケット)

The art of yawning without opening your mouth.

(口をあけないであくびをする術。)

(解説) 大きな口をあけて人前であくびをするのはそれこそエチケットに反する, しかし口をとじたままでくびをするのはいささか技術が必要であろう。

Experience (15) (経験)

Knowledge acquired when it is too late.

(遅れてから身につく知識。)

(解説) わがくににも「下衆 (げす) の知恵はあとから。」という諺があるように経験 (または体験) はそれをもたないとわからない。

Fame (9) (名声)

Being popular with a lot of people who wouldn't like you if they knew you.

(もしあなたを知っていたら好きになれない多くの人々に受けがよいこと。)

(解説) 面白い皮肉。

Fashion (7) (ファッション)

The changing nature of women's clothes which makes girls wear their legs longer one season and shorter the next.

(あるときは女性の脚を長くみせ, また次には短くみせるように婦人服がかわること。)

(解説) わがくにでも女性のファッションはそれこそ猫の目のようにかわる。スカートの長さはやたらと短くなったり長くなったりする。

Flattery (7) (おべっか)

Words of praise that seldom fall flat.

(めったに失敗におわることはないほめ言葉。)

(解説) fall flat は「(企て, ころみ, などが) 失敗に終わる」という意味。また「(冗談などが) 効を奏しない」という意味。

Golf (14) (ゴルフ)

A sport in which a small white ball is chased by men who are too old to chase anything else.

(ほかのなにものをも追っかけるのには年をとりすぎている男性諸氏によって小さな白い球を追っかけるスポーツの一種。)

(解説) chase 「(動物とか女を) 追っかける」という意味。ここでは chase girls つまり「女の尻を追っかける」のには年をとりすぎている, (女性にはもはや興味をなくした) 老人にはゴルフなどが健康によいであろう。わがくにでも, ケイトボールとかゴルフは老人向きであろう。

Honeymoon (6) (ハネムーン)

A vacation when the bride serves hot tongue and cold shoulder to the groom.

(花嫁が花婿に熱いキスと冷たいあしらいをあたえるときに終わりを告げる休暇。)

(解説) hot tongue とは「熱いキス」のこと, また cold shoulder は「(冷遇された旅人には冷えた羊の肩の肉があたえられたことから) 冷たいあしらい」を意味するようになった。
give (show) the cold shoulder to ~ 「人によそよそしい態度をとる」という Idiom.

Inflation (20) (インフレ)

A period when prices are high and money doesn't talk ; it whispers.

(ものの値段が高く, 金がものを言わず, ただひそひそ声でささやく期間。)

(解説) Money talks. は日本語でもまったく同じ表現で「金がものを言う。」という意味。talk は声にだしていうが, whisper はささやくように小さい声でいう。つまり, 「金が遠慮して小さな声でささやく。」のである。

Instalment plan (12) (月賦)

A system that makes the months shorter and the years longer.

（毎月を短く，年月を長くさせる制度。）

（解説）月賦は毎月支払はねばならない，しかもそれが何年もの長いあいだであるので，毎月の支払い日はすぐにやってくる，しかし支払い年月はながい。months と years, そして shorter と longer はじつにうまく表現されている。

Kiss (16) (キス)

The only agreeable two-faced action.

（ただ一つの快適な両面行為。）

（解説）two-faced は文字どおり，「二つの顔，つまり両面の」という意味と，「二心ある，」とか「偽善的な」という意味がある。なお，two-faced はdouble-faced ともいう。日本語にすると，面白味はなくなる。

Love (42) (愛)

The comedy of Eros.

（エロスの喜劇）

（解説）これは Shakespeare の作品 The Comedy of Errors（あやまちの喜劇）をもじったもの。これはくどくどと解説するまでもないであろう。

Marriage (67) (結婚)

The hangover from the intoxication of love.

（恋愛に酔ってからの二日酔い。）

The proof that troubles never come singly.

（苦悩は別々にやってこないという証明。）

（解説）hangover は「二日酔い」のこと。

結婚とはまさにこのようなものであるかもしれない。

Misfortunes never come singly.

「弱り目にたたり目。」という諺をもじった。misfortune も trouble もそのようであろう。

Middle Age (20) (中年)

The period when a woman's dangerous curves become extended detours.

(女性の危険な曲線が広く伸びた回り道になる時期。)

(解説) 若い女性は胸とか腰の線 (curves) がくっきりしているが、中年になると太ってそれらは伸びきって美しくなくなる。

Money (26) (お金)

A friend in need, a need indeed.

(まさかの友人、そして実際必要なもの。)

(解説) これはよく知られている A friend in need is a friend indeed.

「まさかのときの友人が真の友人。」をもじったもの。

この諺でも need と indeed は韻を踏んでいる。

Newspaper (13) (新聞)

A portable screen behind which a man hides from the woman who is standing in a bus.

(バスのなかで立っている女性から男性がその陰に隠れる携帯スクリーン。)

(解説) アメリカなどでは、もし座席が足りなくて女性が立っているようなときは男性はすばやく立ち上がって座席を譲るのがエチケットとされている。わがくにでは年よりなどがバスとか地下鉄で席がなくて立っているのに、若い人が目をつむり、寝ているふりでゆうゆうと腰掛けているのをみかける。またこれに反して年よりの中には座席を譲ってもらうのが当たり前のような顔をして、座っている人の前に立ちはだかる人もいる。

Night club (13) (ナイトクラブ)

A place where they check people's hats and coats but not their drinking.

(人々の帽子やコートを手検してくれるが、飲みものを抑えてくれないところ。)

(解説) 帽子やコートは check (預かる) するが、飲みもの (酒など) はぎゃくにどんどん飲ま

せる。(つまり check 「おさえる」には二つ意味がある。)

Romance (6) (ロマンス)

A love affair that sometimes starts with a wink and ends with a mink.

(ときどきウインクして男性の気をひき、ついにはミンクのコートなどを買わせる恋愛。)

(解説) ここでも wink と mink は韻を踏んでいる。また意味するところも面白い。

Success (21) (成功)

A door that opens to all who have as much push as pull.

(引っぱるばかりでなく押してみるすべての人に開かれる扉。)

(解説) 扉は押す (push) か、引く (pull) しないと開かない、つまり押して開かないときは引いていみること。その反対もありうる。つまり、努力しないと成功はしない。

Telephone (9) (電話)

An invention which takes away some of the advantages of making a disagreeable person keep his distance.

(不愉快な人を敬遠する利点を奪う発明品。)

(解説) keep ~ one's distance は「~をちかずけない」という意味。

あまり話したくない人でも電話がかかれば話さざるをえない、電話は便利なようで不便でもある。

Television (14) (テレビ)

Radio with eyestrain.

(眼が疲れるラジオ。)

(解説) strain は「緊張」という意味。

テレビの視すぎは眼の毒であろう。

Vacation (11) (休暇)

Half a month on the sands that costs eleven and a half on the rocks.

(11ヵ月半は破産状態にあることを覚悟のうえで半月を浜辺で過ごすこと。)

(解説) on the sands は浜辺でのんびり優雅におくこと。on the rocks は「金に困って」とか「破産して」という Idiom である。ここでも on the sands と on the rocks をじつにうまく用いている。

War (14) (戦争)

The period when the rich get the shekels and the poor get the shackles.

(金持ちはお金を得、貧乏人は手枷足枷でしばれる。)

(解説) shekels アメリカの俗語で「お金」のこと、shackles は「手枷足枷」で「そくばく」の意味。戦争になると金もちは軍需景気で金がもうかり、貧乏人はそれこそいろいろそくばくされる。ここでは shekels と shackles と類似した音の言葉が用いられ、声をだして読んでみると面白味がわかる。

Ⅲ 場所

America (18) (アメリカ)

A land where in one generation a family can rise from a plain cabin to a cabin plane.

(一世代にしてある家の人々が質素な丸木小屋から飛行機の特等席に乗れるような出世できるところ。)

(解説) plain cabin は「質素な丸木小屋」という意味。cabin plane は cabin class (上等なクラス) というほどの意味で「特等席がある飛行機」の意味。どんな貧乏な人でも努力によって金もちにも大統領にもなれるところ。ここでは plain と plane という意味は異なるが、まったく同じ音の言葉を用いて面白味をだしている。

(United states of) America (10) (アメリカ合衆国)

A country where permanent waves are increasing and permanent wives are decreasing.

(女性のパーマが多くなるのに比べて、長もちする妻が少なくなっている。)

(解説) permanent waves は「パーマ」のこと。

permanent wives は「結婚したら死亡するまで離婚などしないで妻の座を守る女性。」

increase と decrease 反意語である。

アメリカでは離婚がいかに多いかということである。

Broadway (10) (ブロードウェイ。Times Square ちかくの劇場が多くある地域。)

The way of all flash.

(電光がいっぱいある道。)

(解説) これはイギリスの文人 Samuel Butler の The Way of all Flesh 「才人の路」(1903) をもじったものであろう。flesh は霊魂 (soul) とか精神 (spirit) と区別した「肉体」のこと。

これはまた、Bible の Joshua (23, 14) に And, behold, this day I am going the way of all the earth. とあるが, go the way of all flesh と誤って引用される。それは「死ぬ」とか「俗っぽい生き方をする」という意味。flash は「(光などの) きらめき」と flesh は音が似ている。

Hollywood (16) (ハリウッド)

A place where every actress thinks she's under 30 and every woman under 30 thinks she's an actress.

(どんな女優でも自分は30歳以下であると思い、また30歳以下の女性は自分が女優であると思うところ。)

(解説) 女性がいかに年令に敏感であるかがよくわかる。

参考辞書類

S. Ichikawa et al., *The Kenkyusha Dictionary of English Quotations*, Kenkyusha, Tokyo 1953

S. Ichikawa et al., *The Kenkyusha Dictionary of English Idioms*, Kenkyusha, Tokyo 1964

Y. Koine et al., *Kenkyusha's New Collegiate English Japanese-Dictionary*, Kenkyusha, Tokyo 1985

T. Konishi et al., *Shogakkan Progressive English-Japanese Dictionary*, Shogakkan, Tokyo 1980

T. Otsuka & S. Takase, *Sanseiso's Dictionary of English Proverbs*, Sanseido, Tokyo 1976